

令和8年度 第1回 あきる野市商工業振興プラン策定委員会

議 事 要 旨

- 1 開催日時：令和8年4月27日（月） 午後4時～5時30分
- 2 開催場所：あきる野市役所 5階 504会議室
- 3 出席者：委員10人
- 4 次第
 - 1 開会
 - 2 委員紹介
 - 3 正副委員長の互選
委員長 鈴木委員、副委員長 武委員
 - 4 正副委員長挨拶
 - 5 議事
 - (1) あきる野市商工業振興プランについて
事務局から資料1から2までに基づき説明が行われた。

委員長

事務局からあきる野市商工業振興プランの概要について説明があったが、何か質問や意見はあるか。

委員

3つの基本的方向性は、大きくは変えずにという説明があったが、進捗状況に対する評価を見ると、目標値との開きがあり、厳しい状況だと感じる。考え方として、一旦、基本的方向性も含めた見直しや再検討が必要なのではないか。

委員長

確かに実績値や進捗状況を見ると、厳しい部分もあるが、資料1にあるとおり、上部計画である総合計画に合わせ、現行のプランが1期、令和9年度からが2期という形で目指すべき将来像を設定している。そのため、「ひと・みせ・ものが繋がり、地域の好循環を生み出すまち～あきる野～」という将来像については、今回は変えないこととしたい。

3つの基本的な方向性については、今回のアンケート調査結果や課題を踏まえた上で、検討する必要がある。ただし、将来像にある地域の経済循環を考えると、事業者側の稼ぐ力をどう伸ばしていくか、もう一方で消費者側の消費をどう促進していくか、さらに新しい価値をど

う生み出していくかというのは重要になってくるため、再検討というよりは修正になるのではないかと考えている。

委員

あきる野マルシェについて、令和7年度から商店会連合会が運営主体になったが、既存の開催方法などがあることから、意見出しや変更がしづらい状況だった。今年度は、計画から一緒にやるようにしていれば、より地域全体にアナウンスできるのではないか。

委員長

あきる野マルシェをプランの実施事業とした理由として、人とお店を繋げる機会を創出することで商店会をPRしていくという目的がある。これから、商店会の方々に開催目的を含め、理解してもらう期間を設けながら実施できればと思う。

委員

今回マルシェに参加したが、天気は良かったものの、客足が伸びず、キッチンカーでも売れ残りが出てしまったと聞いている。キララホールやルピアとイベントを同日開催したが、客層が異なり、誘客に繋がらなかったのではないか。実際に出店していた商店会員からは、子どもが喜ぶようなイベントやステージがあると、若い家族連れや親族などが来て、買い物をしてくれるのではないかという意見があった。

委員長

マルシェについても、現行の開催方法が完成形という訳ではないと思うので、これから商店会員の意見も取り入れつつ、形にしていければ良いのではないか。

委員

客足があまり伸びなかったように感じた。最近、各地で様々なマルシェが開催されているが、カフェや手作りの小物を販売されている方などが独自性の高いマルシェを行っており、市外からもお客さんが来るほど人気だと聞いている。あきる野マルシェについても、商店会員と新たな事業者や若い事業者を巻き込んで、取り組んでいけると良いのではないか。

委員長

マルシェの狙いとして、商店会員が一同に集まる機会を設けることで、お店同士の繋がり、さらには新しい価値の創出というところに繋がっていければという狙いもある。そういった新しい風を取り入れながら、マルシェをリニューアルはさせていければ良いのではないか。

他にプランに対する意見や質問はあるか。

委員一同

意見なし。

(2) 策定スケジュールについて

事務局から資料3に基づき説明が行われた。

委員長

令和4年度に策定した際は、全4回というかなり少ない会議の回数で策定しているため、1回1回がかなりのボリュームになった。第2回の策定委員会では、アンケート結果を踏まえた上で、課題設定や基本的方向性の調整をするため、特に検討に時間がかかるのではないかと思う。それを踏まえた上で、第3回に素案を作成することになるが、これが10月の下旬ということになっている。この素案に関しては、事務局で予め作るという認識で良いか。

事務局

素案などの会議資料については、委員に事前送付し、確認してもらうことを想定している。

委員長

事務局には、会議の3日から4日前には資料を事前送付してもらうようお願いする。3回目の策定委員会では、素案に対する意見を集約し、その後事務局で修正を行う。12月の環境建設委員会で報告をし、1月中旬にパブリックコメントを行い、その後、第4回の策定委員会で確認と承認を得た上で、3月の議員全員協議会で報告し、承認を得てプラン策定、公表という流れになる。策定委員会が4回しかないため、色々な意見を出してもらうのと並行して、事務局で修正をしながらプランを策定することになる。

また、現在がプランの1期に当たるため、2期にどう移行させていくかが焦点になる。資料2では、令和5年度からの進捗状況が整理されているが、1番左の欄に基本的方向性が3つ挙げられており、そこから各施策や各実施事業が設定されている。このうち、重点施策とされているものが赤色で示されているが、重点施策に対する意見や、それぞれの事業における目標設定の在り方についても再検討する必要があるのではないかと思う。

すぐには理解しづらい部分もあるかと思うので、今一度委員の皆さんに現行のプランやその進捗状況を確認してもらいたい。

他に意見や質問などはあるか。

委員

策定委員会が全4回のため、内容を整理しながら参加する必要があると思う。例えば、資料1のプランの位置づけだが、産業全体ではなく、商業分野と工業分野に特化しており、農業や観光を含めないという。商業については、小売業を営んでいる方やマルシェに参加されている方などからすると、外部から人を呼んで外貨を獲得する観光的な要素との繋がりが強い側面がある。そのため、商業と観光を施策とし

てどう棲み分けていくのか、プランを策定する上での基礎知識として委員に対して説明してもらおう機会が必要なのではないか。

その上で現行のプランを一通り確認し、変えるかどうかを検討した方が良いと思うが、社会情勢の変化に対応させると変えざるを得ない部分があったり、文言を少し変えた方が良い部分が出てくるのではないかと思う。

委員長

観光分野にも別にプランがあるため、商工業振興プランには含めていないという認識で良いか。

事務局

商工業は商工振興課、観光は観光まちづくり推進課、農業は農林課というように担当部署が分かれており、それぞれで観光推進プラン、農業振興振興計画を策定している。

委員長

産業別にそれぞれで計画が策定されていても、ある程度整合性を持った設定なのであれば、連携することは可能なのではないか。逆に、今の段階で、踏み込まない方が良い領域があるのであれば、ある程度線引きをしておいたほうが良いと思う。

委員の発言にもあったが、観光や農業は商工業とも関わってこそその全体の産業という見方もできると思う。例えば、観光では外貨を獲得するということに重点を置いているのに対して、商工業では市内の経済循環を重要視しているため、現状、市内から市外への流出している消費をいかに抑えるかが課題になってくる。そこで、農産物を活用して商業に繋げていくことや、マルシェのような市内消費に繋げていくことは考えられる。

また、現行プランの9ページに、昼夜間人口が記載されているが、あきる野市は昼間の人口が少なく、夜間の人口が多い状況になっているため、ベットタウン型に分類される。サラリーマンが多いと想定されるため、土日に市外へ外出するのではなく、市内消費を促すためには、マルシェを市内観光のように位置づけてやっていくことも必要なのではないか。

つまり、棲み分けるという考え方よりも、それぞれのプランでうまく生かし合ように調整していければ良いのではないか。

事務局

産業別に計画は策定しているが、大元は総合計画であり、関連する個別計画と整合性を図っているため、連携はできるものと考えている。

委員長

ある程度の連携は可能ということなので、今回のプランを策定するに当たり、委員の皆さんからも様々なアイデアを出してもらえればと思う。

他に意見や質問などはあるか。

委員

産業祭について、プランの中では触れていないかと思うが、市の一大イベントであり、農業や観光との連携の機会になるのではないか。

市内外を問わず多くの来場者があり、認知度の高いイベントであるため、プランに組み込まないのは勿体ないと感じる。

委員長

あきる野市の産業祭は出店者を市内事業者に限っているか。

事務局

キッチンカーも含め、出店者は市内の事業者に限っており、出店内容についても通常営んでいる事業に限定して受け付けている。

委員長

他市の産業祭では、市外の事業者が出店していることもあるので、あきる野市の産業祭は市内事業者に限定しているのであれば、施策に入れるよう検討しても良いのではないか。

委員

前回から工業者という立場で参加させてもらっているが、工業者が事業自体を円滑にできるような支援や施策があると、そこから繋がりができるのではないかと思う。工業自体、市外の取引先が多く、結びつきがあまりない中で、事業のやり易さや住みやすさは重要になってくる。

委員長

事業者連携交流会への参加についてはどうか。

委員

産業祭に商工会の工業部会として参加しているが、事業者同士の連携の場となっている。

委員長

まちゼミなどへの参加は可能か。

委員

工業者の中には参加している方もいるが、自社のように製造工程で油を使っているような事業だと参加は難しく、職人のような事業内容だと参加しやすいのではないかと思う。

委員長

事業者同士を繋げていくというのが、今回のテーマでもあるため、そういった意味で工業者が繋がっていくようなきっかけが少ないのではないかという印象を受けたが、いかがか。

委員

商工会の部会等で集まることはあるが、事業内容や規模も違うため、自身の事業に繋がるような内容にはならないことが多いと思う。

副委員長

製造業という訳ではないが、個人で建設業を営んでいる方がまちゼミに参加しており、工事が出る端材を使って、オブジェやアクセサリに加工するという講座を開催していた。売上げに直結する訳ではないが、そういった取組をしているということによってPRすることによって、将来的に何か役立つんじゃないかということで参加されていたと思う。

私自身、多摩市でまちゼミ実行委員をしているが、製造業者の参加者は少ない状況である。参加しないまでも、別業種の方と知り合えること、自身の商売と関係のある話のきっかけをつくることに繋がるのではないかと、という提案をしている。結果がすぐに出る取組ではないため、事前にそういった事例や捉え方について説明する必要があるのではないかと感じる。

委員

知り合いの事業者がまちゼミに参加していたので、理由を聞いたところ、そういった取組に参加することによって、事業者としての認知度を高めることや市内在住の従業員を確保することに繋がっているという話を聞いた。

委員長

副委員長の話にもあったように、視点を変えると、各事業への参加の在り方や意義が変わってくるのではないと思うので、それをうまく誘発できるように進めていく必要があるのではないかと。

委員

なかなかそのように考えられる事業者は少ないかもしれないが、アプローチとして、こんな事例もあると紹介をしてもらえると参加しやすいかもしれない。

委員

まちゼミについて、当初は商工会が全面的にバックアップすることでスタートしたが、現在は実行委員会を中心に自走化している。イベントとしても定着してきており、年度別で期間やターゲットを設定したり、実施に向けてスケジュールを調整しながら進められている。

その中で、製造業については、建設業や商業、サービス業に比べると関わりが少なく状況である。事業自体をマンネリ化させないためにも、今まで参加できていない業種の方たちに参加してもらおうというのを課題の一つとし、勉強会の中で取り入れてもいいのではないかと感じた。

製造業関係では、商工会の工業部会で、夏休み親子工場見学を実施していたり、産業祭で機械を使って実際に作った焼き芋を提供したりして、市民の方々に自社やその製造機をPRする機会としている。建設業関係では、住宅改修工事等助成事業の中でリフォームのお手伝いをしたり、商業関係では、デジタル商品券などで市民の方と関わる機

会があるため、商工会関連の事業の中で、製造業に関連する事業が何か他にできないか、部会担当を含めて検討できればと思う。

委員長

市内事業者の視点については分かっていない部分が多くあるので、取組や情報等あれば、また教えてほしい。

委員

今後のスケジュールについて、資料3の予定だと、第2回の8月にかなりボリューム感が出るのではないかという話があった。例えば、8月の状況によっては、9月に臨時で策定委員会を開催するなど、会議の回数増やしても良いのではないかと考えている。時間が限られていると、どうしてもまとめることに集中してしまうため、回数を増やしてでも、できるだけ委員皆さんの意見を出してもらいたい。

また、観光と商業の棲み分けという話があったが、外貨を獲得することに特化し、観光公害的な弊害が起こらないようにしていく対策などをまとめたのが観光推進プランとなる。ただ、事業者からすると、商工会の工業部会を除いた会員と観光協会の会員はほぼ同じような顔ぶれであるため、商工業、観光業という区別はないかもしれない。商工業振興プランを策定する中で重要なのは、事業者がどういう支援や取組を必要としているのかというニーズを把握した上でまとめることだと考えている。

委員長

これだけ色々な意見が出ているので、委員の方からすると、現行プランの反省というような議題があった方が良かったのではないかと思う。スケジュールについては、第2回の策定委員会は8月下旬から9月、第2回の状況によっては第3回以降のスケジュールが変更になる可能性があると考えてもらえればと思う。

一旦、第2回のスケジュールについては事務局に一任するというところで良いか。

委員一同

異議なし。

(3) 商工業実態調査の実施について

事務局から資料4-1、4-2、別紙に基づき説明が行われた。

委員長

前回のアンケートから大きく変えてしまうと、比較しづらくなってしまうため、基本的に大きく変更はしていないということになる。ただし、「Q7. 経営上の課題」については、外部環境がこの4年で大きく変わっているため、選択肢に追加や修正を加えて反映させている。「Q10. 事業承継」についても、進捗状況は難しいところではある

が、課題やニーズを把握するために設けている。また、Q19は前回なかった質問だが、現行プランの4年目に当たるため、プランを踏まえた上での意見をいただき、次の方向性に生かしていければと考えている。

回答方法については、前はアンケートを郵送し、返送してもらう形で実施した。今回は、QRコードをスマートフォン等で読み込んでウェブで回答ができるため、回答率が上がるのではないかと考えている。ただし、紙ベースでの回答を希望する方もいると思うので、それに対してはファクスまたは窓口での提出もできるということになっている。

アンケートについて、何か意見や質問はあるか。

副委員長

ファックスで回答する場合は、印刷面が裏表になっているため、裏面が送られてこないということにならないか。A4片面の4枚で提供されるのであれば、問題ないと思うが、いかがか。

事務局

前はA3両面の様式で作成していたが、紙に書いて返送してもらう形式だったため、表面のみの回答しかないというのはごく一部だった。今回は、ファクスでの回答を想定して、A4片面4枚の様式も検討したいと思う。

委員

前回の回収率はどの程度か。

事務局

約1,514人に配布して555件の回答だったため、約36.7%の回収率になる。

委員長

事業者の有効回答率は38.3%、工業者は34.2%ということで、工業者からの回収率が少し低くなっているという現状がある。

QRコードを利用して回答する場合、(9)の意見や提言を除いて、回答を必須という形にすれば、回答漏れは減るのではないか。

事務局

(1)～(8)までを必須回答、(9)以降を任意回答とさせてもらえればと思う。

委員

返信用封筒については、今回は用意しないということになるか。

事務局

今回は、ペーパーレス化の観点からもウェブ、ファクスまたは窓口で回答をお願いする予定である。

委員

前回のアンケートと比較した場合、例えば「Q3. 従業者数とその構成」など、設問番号や設問内容が一致しない部分があるため、読みづらいのではないかと思います。

事務局

Q3などは、前はパーセンテージで回答してもらったが、事業者の方で従業員のうちの女性の割合などを計算してもらうのではなく、人数のみ回答してもらえれば、事務局で算出する形に変更している。

委員

前回のアンケート結果と比較した際に、設問番号が変わっているので、同じ質問項目が探しづらいのではないかと。

委員長

回答方法を変えたことによって、設問の数字がずれることになるが、今回のプランの資料編は新しい設問番号になる。ページ数の都合もあるので、前回のデータとの比較は全てを掲載するわけではないと思うが、第2回の策定委員会の中で、前回との比較資料を事務局から提出してもらい、策定委員会内で議論できるようにしてもらえればと思う。

また、巻末の資料編だけでなく、プラン前半の経済センサス等の資料についても、最新のデータに差し替えるという認識で良いか。

事務局

第2回の策定委員会で今回のアンケート結果と前回との比較について、報告する予定である。プラン前半の資料についても、最新のデータに差し替えさせてもらう。

委員

アンケート用紙を送付する際に、回答に協力した方が良いと思えるような挨拶文が必要なのではないか。

また、事業者や市民の目線に立って考えた際に、観光や農業などその他の産業との線引きが難しいと思うので、商工業分野のプランをつくるため、答えてくださいという挨拶文があった方が良いのではないかと思います。

委員長

商工業振興プランでは、こういったビジョンを描いてプランを策定しているというような説明文や鑑文があった方が良いのではないかと。という意見かと思うが、プラン自体はウェブに公開されているか。

事務局

ホームページ上に公開している。

委員

前回のプランを見たい方は、市のホームページにアクセスすればダウンロードできるというような案内があった方が良いと思う。

委員長

今の意見を踏まえた上で、このアンケートを修正してもらうことになるので、修正後は委員へ共有してもらえればと思うが、よろしいか。

事務局

修正後、共有させていただく。

委員長

アンケートについて、その他意見などあるか。

委員一同

意見なし。

(4) その他

事務局

第2回の日程について、8月を予定していたが、アンケート結果の集計状況も踏まえ、改めて調整させていただく。

6 閉会

副委員長

初めて参加する方もいたので、分かりにくい部分も多かったのではないかと思う。策定委員会が終わったから意見などが言えないということではなく、策定委員会の終了後でも、気づいたことがあれば、ぜひ事務局のほうに意見をいただければと思う。

また、せっかくアンケートを実施するのであれば、有効な情報として生かしたいので、ぜひ協力をお願いしたい。